

【新潟市租税教育推進協議会長賞】

「税はみんなの幸せを守るもの」

新潟市立坂井輪中学校

三年 小松原 凜華

「消費税を昔のように3%にしよう！生活を楽にしよう！」私が毎朝通る通学路で、高齢者の方々が訴えています。私はその事を聞き、「昔は消費税が3%だったの？どうして今は10%になっちゃったの？」と消費税の歴史について興味が沸いたので、調べてみることにしました。

一九八九年に日本で初めて消費税が3%で導入され、その後、国民からの反発を受けつつも、一九九七年に5%、二〇一四年に8%にまで増加し、二〇一九年は飲食料品などを除いて10%にまで引き上げられました。税金にはさまざまな種類があるにも関わらず、なぜ消費税が増税されているのでしょうか。個人の所得に対してかかる「所得税」や法人の所得にかかる「法人税」などが増税されてもよかったのかもしれない。しかし、所得税を上げると働く人の意欲を阻害してしまうかもしれませんし、法人税を高くすると、法人税の安い国に移転する企業が増えてしまいます。しかし、消費税は買い物をする人すべてが必ず納めます。つまり、いろいろな世代の人が平等に税を納めることができるのです。そのため、消費税がどんどん上がっています。しかし、消費税が年々引き上がっていることに対して不満を持っている人が多いのではないのでしょうか。それは、税金がどんな使われ方をして集めるのかきちんと分かっていないからだと私は考えます。

められた税金は、医療や年金、道路の整備、また、国家公務員や地方公務員の給料などに使われています。もし、税金がなかったら、火事になっても消防車が来ないので、消火されなかったり、ごみが収集されないので、町がごみだらけになったりといった問題が多発してしまいます。税金は、私たちの生活に欠かせない身近なところに使われていると知れば、「ちゃんと税を納めよう。高くなっても仕方ない。」と思うでしょう。また、世界には「消費税が25%」でも文句が出ない国があります。国民の幸福度が高いと言われるデンマークの消費税は、なんと25%です。しかし、誰も「高い！」と言わないそうです。なぜなら、デンマークでは、教育費が大学まで無料、病院も無料なのです。「高い税金を払った分、国民の生活が楽になっている」ことを実感しているからこそできることなのだと思います。

今回、税金は、多くの人が社会の中でより安全により幸せに生きていくうえで必要なものだを知ったことで、国民の生活が楽になるのなら消費税は高くなっても仕方ないことだと思うようになりました。今後は、税を納めることの重要性を再確認し、社会に貢献するために努力していきたいと思えます。そして、高齢者の方々に教えてあげたいです。「税はみんなの幸せを守るものだ。」と。